

平成 30 年 6 月 27 日現在

機関番号：13601

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K02433

研究課題名(和文)『杜騙新書』の研究

研究課題名(英文)Study on "Tupianxinshu"

研究代表者

閻 小妹 (yan, xiaomei)

信州大学・学術研究院総合人間科学系・教授

研究者番号：70213585

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：3月に「杜騙新書」訳注稿二編という研究報告書を冊にして印刷し、各地の図書館に郵送しました。訳注稿は閻の監修のもと、底本(明刊本)の配列順に奇数話は氏岡が、偶数話は佐立が草稿を作成し、江戸時代の写本5種を参照し、そこに見られる書き込みも可能な限り収録した。閻小妹・氏岡真士の論文二本「『杜騙新書』と南方熊楠」、「『杜騙新書』の明刊本について」、佐立治人の論文「あぶくの告発」を訳注稿の最後に収録した。

研究成果の概要(英文)：We have published the research report of 「杜騙新書」 translation with notes ver. 2, on March 2018, and mailed it to libraries in various area. This work was shared by five people. Ujioka drafted even numbered, Satate odd numbered stories of the original text (明刊本) under the supervision of Yan; at last, discussed several times with Ito and Inoue. Meanwhile, there we put the writings that can be seen in the 5 types of manuscripts in Edo period we referred to as much as we could. 3 papers - by Yan, Ujioka, and Satate were also added at the end of this research report.

研究分野：日本文学・中国文学

キーワード：詐欺防止法 杜騙新書の訳注 江戸時代の中国書の受容 杜騙新書と南方熊楠 杜騙新書の和刻本 林羅山手沢本 中国明代の詐欺防止白書 江戸時代の和刻本

1. 研究開始当初の背景

『杜騙新書』は、いささか不遇な中国近世の俗語短編小説集である。内容的には公案小説(事件・裁判もの)として位置付けることが可能だが、このジャンルの代表的な研究書である荘司格一『中国の公案小説』には言及すらされず、個別の論考も無いに等しい。また、おもな読者層に商人層が想定できるなど語学的にも興味深い資料だが、その方面でも活用されていない。詳しくは後述するが、この不遇ぶりはまことに不思議である。

かえって『杜騙新書』は、石崎又造『近世日本に於ける支那俗語文学史』に見られるように江戸文学との関連が注意され、徳田武「馬琴と『杜騙新書』」のように優れた論考も発表されている。ただしこの場合、考察されるのはあくまで日本文学への影響であって、『杜騙新書』そのものを中心としたものではない。

2. 研究の目的

明代末期に出版された『杜騙新書』について、中国文学を軸としつつ、日本文学・中国語学・東洋法制史・経済史など多角的見地から、共同研究をおこなう。『杜騙新書』各種テキストの調査を国内外でおこない、書誌学的事項を把握する。原文の校勘をすすめ、重要な部分の訳注を作成する。さらに専門を異にする各自の視点から考察を行ない、『杜騙新書』が中国文学はもちろん、人文科学系の諸方面に資する豊かな内容をもつことを明らかにする。

3. 研究の方法

- (1) 現存する『杜騙新書』諸本の調査をすすめ、書誌学的事項を把握する。
- (2) 原文の校勘をおこない、重要な作品を選んで訳注を作成する。その際には関連諸分野の研究結果も吸収する。
- (3) メンバーそれぞれの専門性を生かした論考を作成、発表し、『杜騙新書』の豊かな内容を重層的に明らかにす

る。

以上の研究成果は冊子にまとめて研究機関や公立図書館に寄贈し、情報の共有化を図る

4. 研究成果

明代末期に出版された『杜騙新書』について、中国文学を軸としつつ、日本文学・中国語学・東洋法制史・経済史など多角的見地から、共同研究を行い、『杜騙新書』各種テキストの調査を国内外で行い、書誌学的事項を把握しました。原文の校勘をすすめ、重要な部分の訳注を作成し、さらに専門を異にする視点から考察を行った。そして『杜騙新書』訳注稿二編2018年3月21日発行しました。

『杜騙新書』訳注稿二編は、中国明代の短編小説集『杜騙新書』全四巻のうち前半に収める作品を中心として、訳注と原文・訓読をまとめたものである。ただし江戸時代の和刻本に見える計17話については、『杜騙新書』訳注稿初編(『杜騙新書』の基礎的研究プロジェクト、2015年)に既収のため、存目にとどめた。

『杜騙新書』訳注稿二編は、閻の監修のもと、底本(明刊本)の配列順に奇数話は氏岡が、偶数話は佐立が草稿を作成し、さらに伊藤・井上とともに五名で検討を重ねた。また江戸時代の写本5種を参照し、そこに見られる書き込みも可能な限り収録した。最後に論考「『杜騙新書』と南方熊楠」閻小妹・氏岡真士、「『杜騙新書』の明刊本について」氏岡真士・閻小妹、「あぶくの告発」佐立治人三編収録した。

『杜騙新書』が中国文学は勿論、人文科学系の諸方面に資する豊かな内容をもつことを明らかにし、また、今回制作発行した『杜騙新書』訳注稿二編という情報の共有化を図る為に研究機関や公立図書館に寄贈した。

校勘は、とくに巻二においては煩瑣を厭わず異同を記した。現時点で確認される写本5種は、すべて巻二相当部分を含んでいる。所見によれば写本各種は明刊本に忠実たらんとして誤脱を

免れないが、後世の書き込みによって正されてゆく傾向にあり、その過程をたどることは、江戸時代における中国書の受容を考えるためにも興味深い資料を提供する。

原文の句読は基本的に明刊本によるが、句点と読点は適宜使い分ける。

訓読は、文語文法に基づくことを原則とするが、必要に応じ自由な読み方を妨げない。また仮名遣いは現代かなづかいを用いるが、「出づ」のように誤解を招きかねない場合はこの限りではない。

- (1 . 假馬脱緞)
- (2 . 先寄銀而後拐逃)
- (3 . 明騙販猪)
- 4 . 里長に出くわしたのを利用して茶壺を持ち逃げする (遇里長反脱茶壺)
- 5 . 混雑に乗じて堂々と店の反物を盗む (乘鬧明竊店中布)
- (6 . 詐稱偷鵝脱青布)
- 7 . 他人の家を借りて布をただ取り (借他人屋以脱布)
- (8 . 詐匠修換錢桌廚)
- 9 . 道で荷物を紛失したとってすり替え (路途丟包行脱換)
- 10 . 偽の銀錠を真と両替する (成錠假銀換真銀)
- (11 . 道士船中換轉金)
- (12 . 詐學道書報好夢)
- (13 . 詐無常燒牒捕人)
- (14 . 詐以帚柄耍轎夫)
- 15 . 路地の入口で布をかうと偽って持ち逃げ (巷門口詐買脱布)
- 16 . 飲酒や女郎買いをそそのかし相手の財産や評判を損なう (哄飲嫖害其身名)
- 17 . 仲良しに不倫を仕向けて田畑を巻き上げる (哄友犯姦謀其田)
- 18 . 友人の借金を一挙に借金返済に充てさせその家を傾ける (壘算友財傾其家)
- 19 . 仲良しをけしかけ不倫を訴えて家をだめにする (激友訟姦以敗家)

20 . ずるい仲買人が紙代をごまかし娘を差し出して償う (牙脱紙以女償)

21 . 資金繰りに困った仲買人が蠟を売り払って借金を返す (貧牙脱蠟還舊債)

22 . もっともらしい言葉で人をけしかけ誘って再び賭博させる (危言激人引再賭)

(23 . 装公子套妓脱賭)

24 . 賭博を好んで反って人の術中に落ちる (好賭反落人術中)

25 . 御曹司を詐称して取引用の銀を盗む (詐稱公子盜商銀)

26 . 衣服や持ち物を見せびらかして盗みたくさせる (炫耀衣粧啟盜心)

(27 . 盜商夥財反喪財)

28 . 傲慢な氣質が訴訟を招き財産も生命もそこなう (傲氣致訟傷財命)

29 . 受験生を駕籠に乗せて隘路に入る (簞擡童生入僻路)

30 . 値段を高く吊り上げて反って利益を失う (高擡重價反失利)

(31 . 公子租屋劫寡婦)

32 . 品物を引き渡すと詐って質屋を襲う (詐脱貨物浩劫當舖)

33 . 都の店に馬賊 (京城店中響馬賊)

34 . こっそりスタンプを捺して寝具を奪う (私打印記占鋪陳)

(35 . 膏藥貼眼搶元寶)

36 . 石灰を目にぶちまけて銀を強奪する (石灰撒眼以搶銀)

37 . 大便中に悪者に白昼強盗される (大解被棍白日搶)

38 . 船が召使いや荷物を載せて逃げる (船載家人行李逃)

39 . 妾を困って船に載ったら夜にさらわれた (娶妾在船夜被拐)

40 . 銅製品を買って船頭に謀殺される (買銅物被梢謀死)

(41 . 帶鏡船中引謀害)

42 . 行李を担いで間違えて別の船に往く (行李悞挑往別船)

(43. 脚夫挑走起船貨)
 (44. 偽粧道士騙鹽使)
 (45. 陳全遺計嫖名妓)
 46. 偽の元宝銀を仕掛けて田舎地主をだます
 (設假元寶騙鄉農)
 47. 冒州で漂白鑊を掴まされる(冒州接着漂
 白鑊)
 48. 役所に入って裁判官の言葉を聞き、外に
 出て騙す(入聞官言而出騙)
 49. わざと重罪を求刑して犯人の罪を軽くす
 る(故擬重罪釋犯人)
 50. 小役人が囚人を叱って責打の刑を分担す
 る(吏呵罪囚以分責)
 51. 女がくず拾いに嫁入りして殺人(婦嫁淘
 街而害命)
 52. 媒酌人が拳人をだまして命婦を娶らせる
 (媒賺春元娶命婦)
 53. よその土地で妾を困って訴訟沙汰に巻き
 込まれる(異省娶妾惹訟禍)
 54. 人妻を娶った策略が蛙によって明るみに
 出る(因蛙露出謀娶情)

論考
 『杜騙新書』と南方熊楠
 閻小妹・氏岡真士
 『杜騙新書』の明刊本について
 氏岡真士・閻小妹
 あぶくの告発
 佐立治人

5. 主な発表論文等
 [雑誌論文](計 10 件)

1, 伊藤加奈子 “家” の日中比較-「家」と「実
 家」をめくって
 信州大学人文科学論集 第5号(通巻52号)
 93-117 2018年 査読有

2, 井上正夫 14世紀初頭のある替銭文書 -
 さいく わん替銭証文案-について
 松山大学論集 第29巻第3号 37-53 2018年
 査読有

3, 氏岡真士 七十回本『水滸伝』の光霽堂刻
 本について
 汲古 第72号 33-38 2017年 査読有

4, 氏岡真士《盛世鴻図》前部与《飛竜全伝》
 信州大学人文科学論集 第5号(通巻52号)
 65-83 2018年 査読有

5, 佐立治人 旧中国の訴訟アドバイザー「訟
 師」の合法性について
 関西大学法学論集 第67巻第5号 1208-1189
 2018年 査読無

6, 佐立治人 呉訥撰・若山拯訓読『祥刑要覽』
 の訳注(五)
 関西大学法学論集 第67巻第4号 2018年
 940-923 査読無

7, 佐立治人 呉訥撰・若山拯訓読『祥刑要覽』
 の訳注(四)
 関西大学法学論集 第67巻第3号 2018年
 746-731 査読無

8, 佐立治人 呉訥撰・若山拯訓読『祥刑要覽』
 の訳注(三)
 関西大学法学論集 第67巻第2号 536-525
 2018年 査読無

9, 佐立治人 胎児はなぜ排出されたか-「棺
 内分娩」現象の解明-
 関西大学法学論集 第67巻第1号 342-334
 2018年 査読無

10, 閻小妹、氏岡真氏 『杜騙新書』と南方
 熊楠
 信州大学人文社会科学研究 第10号 108-127
 2018年 査読有

[学会発表](計 1 件)

1, 閻小妹
 『忠臣水滸伝』と『忠臣蔵演義』
 -『仮名手本忠臣蔵』の白話訳をめくって-
 日本近世文学学会 133回研究発表大会 2017年
 10月19日

[図書](計 件)

6. 研究組織
 (1) 研究代表者
 閻小妹 (yan xiaomei)
 信州大学・学術研究院総合人間科学系・
 教授
 研究者番号: 70213585

(2)研究分担者

井上正夫(inoue masao)

松山大学・経済学部・准教授

研究者番号：10633274

氏岡真氏(ujioka masasi)

信州大学・学術研究院人文科学系・教授

研究者番号：60303484

伊藤加奈子(itou kanako)

信州大学・学術研究院人文科学系・准教授

研究者番号：80293489

佐立治人(sadate haruhito)

関西大学・法学部・教授

研究者番号：70340643